

編集後記

『過労死防止学会誌』第5号を、会員の皆様にお届けいたします。

当学会の第10回大会は当初、昨年8月31日・9月1日に大阪経済大学を会場に、2日間の開催を予定していましたが、ところが、大型の台風10号が日本に上陸し、大雨・強風を伴い大阪に接近することから、急遽開いた8月28日の臨時常任幹事会で、対面開催を取りやめ、3日間の「オンライン開催」と日程の変更を決め、また5年ぶりの懇親会も中止し、会員・報告者等の方々にお知らせしました。

思い起こせば、第6回大会でも2020年5月の2日間、中京大学を会場に開催予定でしたが、「新型コロナ」の蔓延で、9月19日に名古屋市の民間ホールで、「特別シンポジウム」と「共通論題」のみに縮小し、会場出席者を制限しオンライン配信を初めて行いました。これを契機にその後の大会ではオンライン配信し、大会日程も9月頃に移動し、さらに当学会誌が創刊される契機ともなりました。

第10回大会では10回を一つの区切りとして、この学会のこれまでの活動と、今後の在り方を「特別企画」で議論し、「共通論題」では、「2024年問題」の一つである物流での働き方の現状と問題を議論しました。この学会誌第5号は、これまでと同様に、大会の「特別企画」と「共通論題」の報告者の方々に依頼した13本の論稿、分科会の報告者からの投稿10本、会員からの2本の投稿を掲載し、掲載した論稿数は25本で、ページ数も227ページ(奥付まで/以下同様)となっています。

これまで発行した本誌では、第1号(2021年3月発行)は15本の論稿と第6回大会の報告・質疑応答の反訳を掲載し128ページ、第2号(2022年3月発行)は21本・164ページ、さらに第3号(2023年3月発行)は24本・173ページ、第4号(2024年3月発行)では13本・121ページと、掲載論稿が減りましたが、この第5号では掲載論稿が増え、ページ数も初めて200ページを越えました。

編集委員会では、第3号・第4号に続き、この第5号でも校閲を行い、誤字・脱字・文章表現などを執筆者に提案し、筆者の方もそれに良く対応していただき、上手く機能しています。また、英文タイトルの掲載は前号で始めましたが、今回は25本の論稿のうち21本が執筆者の案、編集委員会からの案は4本のみで、前号より進んできています。さらに、この第5号で初めて「抄録」と「英文アブストラクト」を一部の論稿に掲載しました。これは必須ではなく、原稿にある場合に掲載することとし、和文の「抄録」が3本、「英文アブストラクト」は5本掲載されています。

学会誌の「国際化」として「英文アブストラクト」は研究者には必須との声があります。しかしながら、この学会の会員は研究者だけでなく、医師・弁護士・社会保険労務士・マスコミ・労働組合・学生、また家族の会など、過労死・過労自殺の当事者・関係者がこの学会の会員であり、それらの方々に学会誌への原稿をお願いし、また投稿していただく際に、「英文アブストラクト」を一律に必須とすることには、検討が必要です。「国際化」ということでは、これまでも当学会の大会には、韓国や中国から、またフランスからも報告がありました。今後も、日本から広く海外に「過労死防止」を発信していく必要があり、これがこの学会の一つの使命でもあります。当面は、和文の抄録と英文アブストラクトの掲載の有無は、執筆者の方にお任せすることになりますが、編集委員会ではこれを必須とするかどうか、今後も検討すべき一つの課題といたします。

最後に、学会誌への今後の課題として、書評欄を設置し、過労死問題に関する出版物の紹介と書評を行い、また新聞・雑誌情報欄を設置して過労死問題に関する新聞記事・雑誌情報などを掲載し、さらに過労死防止関係の政策・行政・運動等の情報欄を設ける、ということが挙げられます。

この学会誌を読まれた方々へ、本誌へのご意見をお寄せください。また、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。過労死防止運動へ学会として寄与するために、今後とも本誌をよろしく願っています。

2025年3月1日

編集委員 高田好章